

100年の歴史

100 years of history

あやめ御前ゆかりの地

伊豆長岡・古奈の地に生まれて京に上がり、源頼政の妻として平安時代を生きたあやめ御前。頼政亡き後古奈に戻った彼女が、朝な夕なに湯浴みを楽しんだといわれる源泉。遡ってみれば、井川館の歴史は、この源泉から始まったといえます。

今も館内で大切に展示されているあやめ御前の肖像画は、日本画家・尾形月山の作。第二次世界大戦中、湯治も兼ねて疎開していた月山が、この地で描き上げ、ゆかりのある当館に遺してくれた作品です。



1913

井川館 開業

あやめ御前ゆかりの源泉は、泉質が素晴らしく、地元では「美人の湯」として知られたお湯でした。

創業者・井川 萬作は、この源泉に惚れ込み、多くの人たちを楽しんでもらえることを願って、「井川館」を開業します。木造2階建ての館内には広々とした内湯と野天風呂を備え、旅人の疲れを癒し、評判を呼んだと伝えられています。



萬作亡き後、戦後の混乱期を乗り越えた2代目・井川 九八郎は、より快適な宿づくりを目指し、建物の改築を重ねていきます。

当時としてはモダンな造りの館内施設と、戦時中も管理を怠らず守り続けた源泉のおかげでお馴染み様も戻り、戦争の暗い影も少しずつ薄れていきました。

1953

時代と共に歩みながら

井川 雄治が3代目を引き継いだ昭和20年代後半から、時代は高度経済成長期を迎えます。

国内旅行が人気を博し、文人や経済界の重鎮だけの隠れ家だった伊豆長岡も、全国に広く知られる温泉地となりました。新婚旅行や家族旅行など、それまでとは異なるお客様にも満足していただくため、おもてなしも変化を遂げていきます。



1993

平成5年、時代のニーズに合わせて、4代目・井川 昭は、施設の改築に着手し、鉄筋7階建ての井川館が誕生します。



2008

和の香、和の湯

旅行会社勤務を経て専務に就任した井川 勝智は、平成20年、和の香りと和のお湯をテーマにした貸切湯浴み処「香湯庵 watoma」を増築し、その後、弱冠27歳で5代目に就任。

平安モダンをコンセプトに新しい旅館のくつろぎを模索し、サービス改革に乗り出します。

2013

新しい100年に向けて

平成25年9月。創業100年の節目を迎える井川館は、これまでの歴史を礎に新しい100年に向けて、宿名も新たに「香湯楼井川」としてリニューアルオープンいたします。

香湯楼井川

IZUNOKUNI KOUYUROU IKAWA